JREU
JR東労組千葉地本

２０１９年２月２７日 No.９３
ＪＲ東労組千葉地方本部
発行者：下村悟史
編集者：情宣担当
ホームページ http://www.jreu-chiba.jp/

ＪＲ東労組第４５回定期中央委員会、開催される！

《スローガン》

JR東労組の存亡をかけ、向こう2年を展望し、未来を切り拓くために、12地本が総団結し、全組合員と共に組織の信頼回復と強化・拡大を実現しよう！

《議題》

- **第36回定期大会以降の経過と当面の取り組みについて**
- **労働協約・協定の締結承認について**
- **2019年度暫定予算**

《19春闘方針を決定！》

①JR総連春闘として、一律ベア6,000円(定昇含まない)引き上げ要求

②グリーンスタッフ・エルダー組合員の基本賃金6,000円引き上げ要求

③定期昇給(係数4)の実施を要求

④平成採用者の待遇改善を要求

⑤「働き方改革関連法」に関する学習・討論を行い、36協定などのたたかいに繋げる

修正動議4件、議長に対する不信任動議、制裁審査委員会の設置及び申請がなされたが

採決を行いすべて否決

「決まったことはみんなで守る」を出発点に、19春闘で賃上げと仲間の加入を実現しよう！

委員会宣言 ~~(案)~~

ＪＲ東労組は２月８日、ＴＫＰ東京駅日本橋カンファレンスセンターホール６Ａにおいて第45回定期中央委員会を開催し、19春闘をはじめとした当面する運動方針を確立した。ＪＲ東労組19春闘は、18春闘総括を踏まえ、組合員の日々の奮闘に応えるべく、堂々とベアを求めていく。

19春闘において経営側は、経労委報告にもあるとおり、ベア中心の議論を見直し、総合的な処遇改善を重視する姿勢を鮮明にした。一方の連合は、ベアだけでなく、企業規模ごとの賃金水準を従来より重視するとした。これは労働組合が同時期に要求を掲げ、相乗効果で経営側に賃上げを求めるこれまで築き上げてきた春闘の形に変化をもたらすものであると言える。

ＪＲ東労組は、情勢と18春闘の「大敗北」の総括を踏まえ19春闘に臨む。18春闘において会社は「基本給改定を行う場合には、所定昇給額により職責の重さを反映させる手法にこだわるものではなく、賃金カーブ上の課題等も勘案の上、その都度、労使で真摯な議論を行い決定する考えである」と17春闘と同じ回答を示し、「所定昇給額により職責の重さを反映させる手法によりベアを実施することはある」とはっきり主張した。それにもかかわらず、ＪＲ東労組中央闘争委員会は「ベアの算出基礎にしてきた所定昇給額にこだわらない」と会社が回答したことを切り出し、格差ベア根絶が実現したと打ち出した。闘申１号の議論経過を正しく受け止めることができず、誤った打ち出しをしたことによってＪＲ東労組組織内は混乱し、組合員から信頼を失い、今の組織がある。その現実から逃げることなく、19春闘においてはＪＲ総連春闘方針に基づき、組合員との議論を深め、ベアは毎年その都度労使で決めるという基本スタンスに則り、真摯に団体交渉に臨んでいく。

第37回臨時大会で、向こう２年間を組織強化・拡大期間として取り組んでいくことを決定し、12地本総団結のもと進んでいくことを目指した。しかし、第37回臨時大会に関する抗議、および緊急措置要求、第37回臨時大会で改正が確認された規約・諸規則の無効を求める見解やそれに基づく職場討議資料などが東京・八王子・水戸地本から出された。大会決定に反する組織混乱行為だ。さらに、制裁対象者14名文責の53ページにも及ぶ資料において、18春闘の総括と19春闘のたたかいを提起していることは筋違いにも程があり、組織破壊資料以外の何ものでもない。総団結をめざす今、いかなる組織破壊攻撃も許さない。

４月以降「働き方改革関連法」が施行される。私たちの働き方は変化していかざるを得ない。だからこそ、職場の声に基づくＪＲ東労組運動を確実に行い、仲間と共に地に足を付けて進んでいかなければならない。「電気部門の変革2022」について本部交渉を支えるべく、職場の全ての仲間と職場集会等を積み重ねた実践のように、決して仲間を置き去りにせず、丁寧に議論を積み上げて施策に対峙することは、ＪＲ東労組の強化・拡大に間違いなく繋がっている。また、施策が進む中、職場では事故・事象の原因究明を蔑ろにした転勤や日勤教育が数多く発生している。原因究明委員会の強化を通じ、鉄道の安全を守り抜かなければならない。

安倍政権は、働き方改革関連法や出入国管理法、毎月勤労統計などの嘘・誤魔化し、経済優先で国民置き去りの姿勢だ。憲法改正を阻止し、安倍政権の暴走を止めるため、ＪＲ東労組議員団会議との連携を強化し、統一地方選挙と参院選をたたかい、平和・人権・民主主義を守り抜こう。

組合員が求めているのは、明るく、風通しが良い組織・職場である。組合員のためのＪＲ東労組運動を組合員と共に職場から展開することで12地本の総団結をつくり出そう。ＪＲ東労組存亡の危機を全組合員で乗り越えて、組織の信頼回復と強化・拡大を実現していこう。

以上、宣言する。

2019年2月8日
東日本旅客鉄道労働組合
第45回定期中央委員会